



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

私たちの敬愛する後宮俊夫牧師が、昨年12月23日のクリスマス礼拝のその晩に亡くなられた。御歳96歳。その最期は、まるで隣の部屋にちよつと行かかのような静謐なものだったという。

アシュラムセンターの常任運営委員長として、長年アシュラム運動を牽引してくださった。その後宮牧師が、真珠湾攻撃にも参加した海軍士官であり、敗戦の後、生きる目標を失いかけていた頃に、不思議な神の導きにより、同じような経験をくり、懸命に主のご用のために苦闘する榎本保郎と出会い、その妹と結婚までして、キリストにその生涯を捧げるようになったことは、三浦綾子さんの書かれた『ちいさな先生物語』の中に詳しい。しかし、そんな後宮牧師を突き動かし、地位も名誉も、財も捨て、ひたすらキリストへと向かわせた、もう一人の大きな影響を与えた人物がいる。それが、紀州の南部で「労働学園」という農村青年のための学校を作り、その生涯を農村伝道に捧げた升崎外彦牧師なのだ。後宮牧師は、後に升崎牧師との出会いを、その著書『み手のうちに』の中で、このように書いている。

「講師の一人であった升崎外彦牧師が昼間話された時、男の講師なのに台所改善の話で、

包丁はこう収めなさいとか、まな板がどうかで、これはなんといいことかと思つた。」  
開拓間もない世光教会で開かれた「農民福音学校」で、聞いた話が、生活改善運動であつたことに不満を感じたのは、いかにも元海軍士官の先生らしいところであるが、しかしその後語られた升崎牧師の農村伝道の苦勞話と失敗談が後宮牧師の心を捉えたのだ。

瞑想

現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないわたしは思います。

そんな生き方でいいのかと思うようになっていた。儲かるわけではないのに、報われないうことを自分を犠牲にしてまでやっているこの人たちを見て、これがキリスト教の力なんだらうかと思つた。」  
こうして、後宮牧師は、求道生活に入り、洗礼を受け、そして牧師となつていくのである。

「人生辛酸多し、されど神は愛なり」我が家には、唐辛子

主幹牧師 榎本 恵

□マ8・18

「伝道に失敗したような話であるが、これを楽しそうにするのであつた。なんで失敗した話を、こんなに楽しそうにできるのか、驚きであつた。(中略)敗戦で生きる根拠がなくなつたわけであるが、日本が立ち直っていくためには、青年たちの教育、人材育成が大切だと考えていた。真珠養殖の仕事をしていると儲けるためにいろいろなことをする裏面が見えることにもなり、

やカボスなど酸っぱい食べ物と絵とともに、こう書かれた升崎外彦牧師の書があつた。金沢の大きな浄土真宗のお寺の一人娘を母に持ち、難産で生まれた自分に変わり死んでいった母の遺言で、幼くして出家した升崎牧師は、しかしどうしても魂の渴きを鎮めることができず、キリスト教に救いを見出す。けれどもそれは同時に、激しい迫害となり、寺からも父親からも勘当、破

門される。救世軍の士官として出雲伝道に携わり、そこでも大変な苦勞をなされ、まさに人生の辛酸、苦澁をなめ尽くしたような牧師が、しかしそれを飄々と楽しい思い出のように語る姿は、きつと神の愛があふれ、聞くものの心に迫つたことだろう。そしてその話に感動し、人生をこの神の愛に賭けていった生涯に、また感動し、その後が続こうとするものたちが確かにいるのである。

パウロもまた、その伝道の中で経験した数々の苦勞を数え上げる。「しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難」(2コリント11:26-28)などなど。けれども彼は、こうも言うのだ。「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないわたしは思います」(ロマ8:18)と。まさにパウロの人生辛酸多し、されど、その神の愛の栄光は測りし得ないものであつた。

友よ、私たちクリスチャンの道は、まさに辛酸多き道である。けれども、パウロのごとく、升崎外彦牧師のごとく、そして後宮俊夫牧師のごとく、その先のある神の愛が、その上に現れる神の栄光があるのだ。私たちがまた、彼らに続くものとなるよう。

ご献金者  
敬称略  
12月分  
(クリスマス含む)  
良雄  
金子 啓子  
猪瀬 孝子  
本村 豊子  
金井 勝彦  
池井 玲子  
平井 義人  
山崎 知恵子  
橋本 和子  
榎本 初子  
金子 晋造  
谷 幸宏  
實 展子  
下村 誠子  
東谷 美子  
松 千歳  
榎 京子  
越智 孝子  
上柳 昭子  
香川 昭子  
佐賀 昭子  
正岡 喜久子  
山田 美寿子  
吉田 美寿子  
渡辺 美寿子  
安島 静枝  
井澤 順子  
河村 縁子  
島村 彩子  
岩波 久一  
吉川 直子  
森山 直子  
坂井 義明  
岡松 公之  
谷 伸男  
片岡 明子  
野崎 康一  
植草 朝子  
沖田 純子  
森 宜和  
五井 陽子  
横山 陽子  
前川 隆子  
辻 優子  
足立 タツ子  
常任運営委員会  
櫻井 愛子  
杉山 ミユキ  
杉山 文子  
金原 真知子  
安原 理子  
山 道子  
新生伝道所  
阪神 ミニアシュラム  
豊水 康子  
牧野 伴子  
センター  
クリスマス礼拝  
崔 弘徳  
崔 ハヨン  
加藤 和子  
大森女子学院  
エクステンション  
「楽しい音楽教室」  
一岡  
チャイム  
コンサート  
(池田)  
チャイム(の会)  
築山 広子  
齋藤 星耕  
齋藤 明古  
南 和子  
大山 悠子  
無 名氏  
長村 美子  
福聖書教室  
野波 志都子  
里立 千里山  
キリスト教会

様々な事がありました。第44回年頭アシュラム、主の祝福によって開かれましたこと、感謝いたします。

ご参加の皆様、そして、お祈り続けて下さった皆様に深くお礼申し上げます。アシュラムセンターに寄せられたお便りメッセージより、一部をご紹介します。

## 第44回年頭アシュラムに参加して



吉川 晴美

主にある幸いに感謝して御名をほめたたえて御礼申し上げます。年頭アシュラムに出席させて頂いた大変お世話になりました。多くのお導きをいただいたてありがとうございます。どうぞこれからも準備にどれだけの時間をかけてくださいましたことでしょうか。おやさしいお心のこもった受付

に立った時からうれしかったです。和子先生のお元氣なお姿とお声とお祈りの一つ一つのおことばと、ほんとに感動でした。

榎本先生が天のみにて喜んでいらつしやると思い、父(唄野政一兄)も一緒によかつたなど話しているように思えました。

るつ子先生の美しい奏楽と、にこやかなお顔とはつきりしたお声でコーラスの指導をしてくださったことは、ほんとにうれしい事でした。センターでの大きいお働きに感謝しています。そして先生の力あふれるメッセージに新しい喜びを与えられました。雲の中に虹があること。私達は引退し、引越しの生活も終わりましたので、何かすきま風が入ってくるような気持ちでしたが、そんな時になお雲の中に虹をおいてくだ

さるイエスさまに心から感謝でしたし、祈りの家のことも少し以前から思っていました。が、今年はずっと真剣に具体的に祈って考えていこうと思わされました。

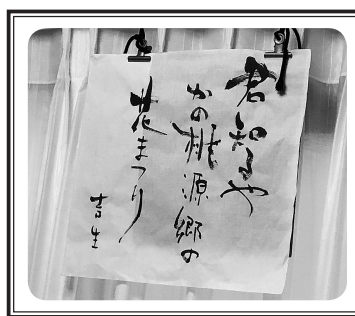
ながく開かない門でも神さまは開いてくださいますから、主がなしてくださると柔和な心で祈って、主権を持つておられる方に従いたいと思います。教えられる時にあまり年齢を考えないでも、みことばは何才でも同じだと気づかされました。

ほんとうにありがとうございます。来年も出席させていただきます。ファミリーの方々ともよいお交わりをさせていただいて感謝です。すべての主にある幸いに感謝して御礼申し上げます。みなさまのお疲れをいやしてくだ

さり、ねぎらつてくださるイエスさまに感謝して、アシュラムセンターの多くのお働きに御祝福が豊かにありますようにお祈りします。

(長岡福音自由教会)

療養中の松平吉生兄、2月11日、天に召されました。(アシュラム誌12.1月号 俳句掲載) 榎本保郎師の旧約聖書一日一章、後宮俊夫師、松代姉の著書作製の為に御尽力下さいました。「君知るや かの桃源郷の花まつり」吉生 (ホームホスピスの部屋にて撮影)



江子 茂夫  
鈴木 博香  
渡辺 茂夫  
有田 悠紀  
関根 悠紀  
西本 美恵子  
安仲 萌子  
松浦 功基  
榎戸 真弓  
榎戸 美保  
新井 三子  
新井 幹二  
尾崎 恵  
尾崎 哲嗣  
川村 秀雄  
平山 重子  
当山 茂男  
小林 (退院感謝)  
小林 佳子  
黒澤 ヒサ子  
(誕生感謝)  
黒澤 源之助  
酒井 (誕生感謝)  
山田 称子  
山田 俊子  
大脇 洋美  
高松 正喜  
後宮 周子  
西田 章子  
日本 エス・グループ  
高松 田村 教会  
菅田 洋子  
吉井 三代子  
吉永 京子  
小田 切箱子  
渡辺 信治  
榎本 恵子  
榎本 光太郎  
榎本 日出  
渡辺 邦子  
水野 和子  
佐藤 和子  
持松 平子  
松平 尚  
合田 久美  
藤木 久美  
中良  
キリスト教会  
米田 敬三  
米田 敬三  
江田 昌  
宮崎 章  
久保 三千代  
小西 美恵子  
朽木 順子  
阿部 輝夫  
単立 吉田  
キリスト教会  
関原 寿美代  
石井 寛  
石原 誠  
石原 繁子  
ちいらば 教師  
記念チャペル  
夕礼拝  
近藤 千恵子  
多嶋 昭男  
吉澤 アシュラム  
山崎 久  
安原 亜子  
桑原 明子  
野波 ヤッポ  
チャボ 保子  
小林 悦子  
田中 悦子  
宇都宮  
バプテスト教会  
天野 三  
沖田 和志  
野口 洋子  
吉田 幸  
菅内 キヨエ



# アシュラム修道場生活記

## その24

### 「修道場③」

伊達 平和



修道場の冬はとにかく寒い。家の中であるにもかかわらず吐く息が白い。ここは家の中ではなく外である。日中、外気温が上がっても、家自体は温まらないので、帰ってくると外より家が寒いということもある。床暖房だとか、セントラルヒーティングだとか、世間では導入されているが、修道場では綿入りハンテン、ニット帽、巻キスカート、もこもこスリッパが欠かせない。先日友人の家に遊びに行ったとき、床暖房があり、とろけそうになった。もう引っ越そうかなと本気で思った。古い一軒家は基本的に同じだと思うが、この冬の寒さだけは、なんとも擁護しようがない。

同じく、修道場の冬に欠かせないものに湯たんぽがある。ここに来なければ、湯たんぽがこんなに愛しいものだと知ることはなかっただろう。今は長野の共働学舎に行っている妹が「湯たんぽいいよ」と言い出したときは「ハ?理解できない」と思っていたが、今では欠かすことができない。特に朝のまどろみの中、ちょうどよい温度まで下がったぬるい湯たんぽを引き寄せて抱えると「幸せとはこういうことだったのか」とさえ思う。

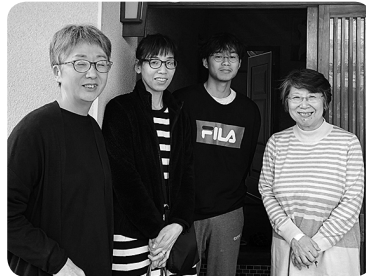
冬の修道場、悲喜こもごもであるが、修道場が寒くて最も困ることは、早天祈祷会への参加が億劫になることである。特に仕事が忙しくなると、「朝の15分があなたを変える」というのは忘却の彼方に消え去り、「朝は5分でも寝ていたい」に変わる。だったら早く寝ればいいのだが、仕事でイライラしているときは、布団に入ってもなかなか寝付けられない。告白すると、この生活記その24を書き始めた時は、5日ほど早天をサボってしまった。

そんな時のことである。仕事のことでとても怒りに燃えたことがあった。誰にこのイライラをきいてもらおう。と、選んだわけではないが、なりゆきで休職をし

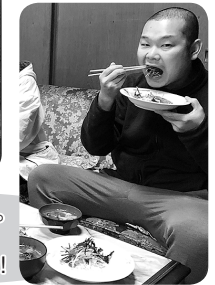
ている知人に毒を吐き出しまくっていた。知人曰く「いいなあ、俺はそうやって働けるってだけでうらやましいよ」。とたんにシュンとなったのは言うまでもない。自分のことで頭がいっぱいで、辛い思いをしている知人のことを思いやることができなかった。この生活記の第1回目には「31歳が綴るアシュラムセンターでの交わりと心の成長(予定)の記録である」と書いてあるのに、アシュラムで生活をして成長したと思ったら、失うのは一瞬である。24回目にして、またスタートラインに戻ったわけだ。心は常に耕さなければならない。

保郎牧師によると、信仰生活は点を打つようなものなのだそう(榎本保郎著『アシュラムの手引き』より)。「信じる」という日々の点はやがて線となり、それが「信仰生活」となっていくという。なるほど、線は2つ交われば面となり、もう一つ交わると立体として立ち上がってくる。そういう意味では信仰生活を送っている友が3人集まるところに、神の働きが立ち上がって見えてくるようになるのかもしれない。修道場も色々な人数で生活をしてきたが、3~4人というサイズがちょうどいいようだ。

そんな修道場であるが、諸般の事情により、現在は1名で過ごすことが多くなった。しばらくはこの寒い修道場で一人で過ごすことになるが、だれが住んでいようがいまいが、自分は自分として、日々の点をキチンと打って、線にしていかなければならない、むしろ、そういう時期が与えられたと思って、今日も寒さ対策をしながらここで生活をしている。



ようこそ修道場に！故郷の香りに包まれたひととき



久々に、修道場で早天。庭の畑の掘り立て大根サラダ！シャキシャキ美味しい!!

## 第16回 国際正義平和アシュラム in札幌

主 題：大地に響け、平和の調べ  
 主題聖句：「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」 ルカ 2：14  
 日 時：9月30日~10月2日 (ツアー予定あり)  
 会 場：シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ  
 奉 仕 者：ジュランジール・柳原一蔵師 (世界アライアンス教団理事長、在ブラジル)



主唱者)

《2日目の集い》キャロルサクク宣教師 (リラプレカリア・祈りの堅琴 台湾原住民教会 皆様の讃美 アイヌの皆様方の歌

## FEBCラジオ再放送のお知らせ

### 『だびんちゅ(旅人)牧師の 今日も求道中』

2019.4.2~6.25 毎週火曜日(予定)  
 夜10時29分~ 12分間  
 インターネット  
<http://www.febcjp.com>



梅津 叔子  
 杉山 英一  
 棚大浜  
 キリスト教会  
 三好 晴夫  
 新 千重子  
 高知  
 クリスマン・センター  
 福江 義史  
 山本 英夫  
 大内三枝子  
 単立瑞玉  
 キリスト教会  
 平田 孝  
 平田 絢子  
 鹿屋  
 キリスト教会  
 西山 均  
 西山 由香  
 菅原 博  
 篠原 哲二  
 232口  
 ¥2,642,444

ヨセフ基金 (義援金)  
 田辺 明子  
 五井 純  
 辻 隆  
 辻 優子  
 櫻井 愛子  
 有賀 芳子  
 河田恵美子  
 西本美恵子  
 安仲 萌子  
 小林 茂男  
 小林 佳子  
 矢萩 直子  
 ちいらば  
 アツちゃん・シユラム君  
 米田 康子  
 田中 悦子  
 中 礼  
 ミニアシュラム  
 吉田すみゑ  
 相川 良子  
 西野 栄子  
 中島 将光  
 八木多恵子  
 渡部 元  
 家形 日出  
 21口  
 ¥3,400,900

新修道場のために  
 たびんちゅ牧師 1口

会堂改築のために  
 鍛田 達明 1口

るっちゃん  
 るんるん福音堂のために  
 メスエツト おぼさん 1口

センター修復のために  
 順子 日出 2口

合計  
 292口  
 ¥3,001,344

専いご献金、ご献品、お祈り、お便り、電話メッセージ、そして、共にアシュラム! 感謝いたします

加々美 要  
 田中 義信  
 田中美知子  
 大阪聖書教室  
 島尾 恵子  
 水淵千枝子  
 久遠聖書教会  
 三本 義晴  
 奥田美和子  
 小川 久恵  
 大原 淑子  
 夏目 英一  
 大澤 進  
 沼田 淑子  
 西沢 基子  
 土屋 聡  
 土屋めぐみ  
 廣石 凛子  
 宇野 澤子  
 日本  
 キリスト教団  
 三島真光教会  
 矢野 寛子  
 英一 文隆  
 木下 文江  
 木下 卓  
 松川 律子  
 松川 義和  
 大門 七子  
 森 弘子  
 藤本 岩夫  
 藤本 良明  
 相川 良子  
 長尾 伸子  
 竹下 高子  
 本名 愛子  
 星野 隆三  
 星野 広子  
 脇 万里子  
 降矢 トヨ  
 山崎理恵子  
 照屋 新市  
 カフェいちは  
 聖書入門講座  
 東 千代  
 大山 悠子  
 伊達 平和  
 榎本 和子  
 橋本るつ子  
 西野 栄子  
 大隈 徳雄  
 大隈 潤子  
 柴田 珠江  
 真野 恵子  
 村瀬 俊夫  
 神崎江美子  
 鳥谷越明子  
 丸山 美紀  
 上柳 京子  
 小林 美代  
 南山 伸夫  
 塚家 玲子  
 後藤 梅子  
 窪 敏子  
 前西 政忠  
 村主 由美 (誕生感謝)  
 渡部 元  
 伊達 洗次  
 安藤 豊子  
 静岡聖書教室  
 池谷 治朗  
 無 名 氏  
 無 名 氏  
 無 名 氏  
 無 名 氏  
 瑞穂 順子  
 満井 由栄  
 石田 哲夫  
 仲宗根留美子  
 井上 正子  
 無 名 氏  
 西澤 正文  
 西川 利栄  
 山本 悦子  
 中原 敦子  
 原田 博充  
 富山 政一  
 富山 桂子  
 辻田志津子  
 坂本 伸代

瞬きの詩人

水野源三の世界 36

三浦綾子記念文学館特別研究員  
森下 辰衛

黄ばんだ写真 1979

引き出しの隅から  
出て来た  
一枚の写真

脳性麻痺の  
苦しみも悲しみも  
まだ知らない  
私がいる

写真屋へ  
つれて行った  
若い父母の  
祈りがこもっている



それは、記憶という机の引き出しの隅から出て来たのでしょう。或いはその写真が引き出しになって、忘れていた記憶の箱を開いて見せてくれたのかも知れません。不意に出て来た、一枚の写真に目を釘付けにされる源三さん。それは思いがけず掘り出されて目の前に置かれた、過去の時間そのものでもあったでしょう。

脳性麻痺の 苦しみも悲しみも  
まだ知らない 私がいる

全く違う生き物を見るように、あるいは前生の出来事でもあるかのように、源三さんの目には見えたことでしょう。その写真は、全く違う時代の、全く違う世界、全く違う私があったことを語り証言するものだったのです。

その一葉の写真が語る時間の後に訪れた、脳性麻痺の苦しみと悲しみが、源三さんの人生を何もかも全く変えてしまったのです。その後の人生はその苦しみと悲しみに満たされてしまいました。少なくとも、キリストに出会うまでは。

その嵐の時間、それが来る前の何も知らない私がそこにいる。それはなつかしきよりも切なさに誘うセピア色に染まった写真だったことでしよう。

写真屋へ つれて行った  
若い父母の 祈りがこもっている

スナップ写真でなく、それは写真屋で撮った写真でした。だからきっと、何らかの正装をした写真なのでしょう。少しだけ特別な、だけど特別ではない、人生のひとつコマの記念として、それは撮られました。でも、それが、その数年後には、永久に失われた健康な時代の証言写真になるとは、誰一人思いもしなかったのです。

父母はただ祈りをこめて、この愛する子の幸せと健康な成長を願って撮ったのです。それは、七五三の記念写真であったのかも知れません。きっと、写真屋に連れて行かれたやんちゃな少年は、ふざけて走り回って、落ち着きなく、変な顔もして叱られたかも知れません。

若かった父母、この息子のゆえに大きな苦しみ悲しみを負うことになることなど知らなかった、若い父母への、慈しむような、慰めかけたいような、感謝しながら謝りたいような、そんな気持ちのセピア色なのでしょう。

落ち葉のように黄ばんだ写真。記憶の箱の底でなつかしくなつかしく朽ちてゆくはずの時間。けれどそれが断ち切られた時間であるゆえに、かえって、特別なものとして遺ってゆくのです。

しかし、そのすべての時間の中に、その嵐の前も後も、いつも変わらずにあったものがある。子の幸せを願う父母の愛。それだけは変わらないのです。そして、はじめから祈りがあった。そこには人の親としての純粋な祈りがあった。そして、その変わらない両親の愛の背後に、変わらない神さまの愛があったのです。源三さんは時間の落ち葉の下からそれを発見したのです。

11年前の父寛さん、4年前の母うめじさん、2年前の榎本先生に続いて、宮尾先生を天に送った年の詩です。



2018年12月25日

## 後宮俊夫牧師前夜式で語られた榎本恵牧師の式辞

生前、後宮牧師は、産経新聞のインタビューの中で、戦争中のことを振り返りこのように話しておられます。「あの時は自分たちの惨状しか見えなかった。相手の惨状は見え、心の傷も見えなかった。」と。ひたすら偉大な国になることを目指し、相手のことよりも自国の利益を求め続けた結果、その戦いに敗れ、すべてを失い、全てが虚しく、愚かに思っていた後宮俊夫を変えたのは、やはりこの王宮では無く飼葉桶の中に寝かされていたイエスキリストとの出会いであったのです。そのことについては、先生の著書『み手のうちに』のなかに詳しく書かれておりますが、その前書きを書かれた三浦光世先生の言葉を紹介しましょう。

私と妻綾子が、先生について特に感動したことを、先生ご自身、第3章の終わりに簡潔に書いておられる。1951年頃、先生は自衛隊の前身保安隊から、旧海軍士官と同等の待遇をもって迎えたいと誘われる。前後して、鉾山所長にと求められる。月額8万という破格の報酬である。

しかし先生は、この二つを斥ぞけ、榎本先生の招きで、一伝道所の主事になられた。本書には書いていないが、収入は3千円でなかったろうか。この最低の道を選んだ先生の生きざまを、私たち夫婦は何度感動して話し合ったことであろう。(後宮俊夫著『み手のうちに』序文より)

まさにパウロがフィリピ書3で「それらを塵芥とみなしています」と喝破したごとく、後宮牧師はそれまでの栄光や富、地位や、名誉を捨て去り、飼葉桶の中に眠る主に出会い、ひたすらその主に従ったのではなかったでしょうか。

さてここで、わたし自身の後宮牧師との忘れ得ぬ思い出を語りましょう。お分かりの方も大勢いらっしゃることでしょうが、わたしは後宮牧師の甥にあたります。昨日、喪主の敬爾牧師より、今度の後宮牧師の葬送の式辞を、わたしともう一人の甥であります中道基夫牧師の2人でやるようにと受けました。実はわたしにとりまして、後宮牧師は敬愛する叔父であると同時に、私どもの宗教法人アシュラムセンターの常任運営委員長、代表役員でもあるわけがございます。先生はほとんど全ての役職を降りられ、また牧師も引退なさっておられますが、唯一アシュラムセンターの常任運営委員長の役は終身お引き受けいただいております。ですから本来は鉛筆一本先生の裁可をえないと買うことが

出来ないものでありまして、今わたしが乗らせていただいている車のリース契約も、じつは代表役員後宮俊夫の名前で、契約しているものであります。契約の時、書面に、契約者の生年月日を書く欄がありまして、そこには昭和と平成しかなく、しかたなく大正11年4月12日 93歳と書き込みますと、ディーラーの方がびっくりして、まさか、この方が乗られるのではないでしょうねと言われたことがありました。もちろんこれが、わたしの忘れえぬ思い出ではございません。

そうではなく、今から11年前、沖縄から戻り、アシュラムセンターの主幹牧師として赴任した際の頃でありました。多くの信徒たちが、わたしの就任を喜んでくださいましたが、中には一部わたしの牧会経験の少なさに反対者のいることも、また多くの人が遠巻きに、わたしにこの仕事が務まるかどうか、鶺鴒の目鷹の目で見ていること、いくら鈍感なわたしでも、ひしひし感じている頃のことでした。ところが、その中で、後宮牧師は、この若輩者であるわたしを、恵先生と呼び、「これからは君の思う通りになんでもやりなさい」と、皆の前で宣言して下さったのです。それは大変な驚きでありました。11年経って今思うに、自分が逆の立場であったとして、このような大胆なことを果たして言えたかどうか。けれども、ここには、きっとわたしと同じ言葉を、後宮牧師からかけられた方は多いと思うのです。教会の現場で、また福祉の現場で、それは私たちに大きな後ろ盾を得た喜びと、またその期待に沿うようにという責任を与えられたことでしょう。(つづく)



恵師が主幹牧師になりたての頃、桜咲く琵琶湖畔にて。  
(左には松平吉生兄も)

3月の聖書教室など	
25(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 PM2:00)
26(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター4F AM10:30)
26(火)	桜美林リトリートアッシュラム (桜美林大学荊冠堂チャペル PM2:30)
27(水)	ちいろば祈りの家(東京都町田市黒見妙子姉宅 PM1:00)

3月のアッシュラムなど	
1(金) 2(土)	ブラジルアッシュラム 奉仕者 櫻本恵師
3(日) 5(火)	ルージラモスアッシュラム(ブラジル) 奉仕者 櫻本恵師
9(土) 10(日)	ブラゾリアアッシュラム(ブラジル) 奉仕者 櫻本恵師
17(日)	JAUC(日米合同教会 ニューヨーク)主日礼拝 奉仕者 櫻本恵師
21(木) 22(金)	第1回 茨城アッシュラム <b>New!!</b> 03-3793-4624 (下妻シャロームキリスト教会) 山本悦子師 奉仕者 櫻本恵師

4月のアッシュラム予定	
19(金) 20(土)	第26回 三重アッシュラム 奉仕者 櫻本恵師
29(月) 30(火)	第22回 阪神一日アッシュラム 奉仕者 櫻本恵師

2019年5月以降のアッシュラム予定	
5月2~4日	第27回 秋田・盛岡アッシュラム
5月2~4日	第39回 関東青年アッシュラム
5月17~18日	第6回 北陸・金沢アッシュラム
5月25日	第19回 愛知一日アッシュラム
6月15日	第1回 四国アッシュラム <b>New!!</b> (金田福一牧師記念)
6月13~15日	第45回 加太アッシュラム
6月20~23日	たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅・ 沖縄聖書教室
7月15日	福岡一日アッシュラム
9月9~11日	関東アッシュラム
9月20~21日	新潟アッシュラム
9月30~10月2日	第16回 国際正義平和アッシュラム
10月7~8日	第43回 山陰アッシュラム
10月9~11日	第7回 日光オリーブの里アッシュラム
10月11~12日	第20回 愛知一泊アッシュラム
10月22日	第23回 埼玉一日アッシュラム
11月14~15日	第43回 阪神アッシュラム

## みことば

下妻シャロームキリスト教会牧師

山本 悦子

### 列王記

「聖書的信仰の規範」

列王記は、ユダとイスラエルの歴史をのみ編集したのではなく、むしろ宗教的教訓を目的として記されています。

南北両王国の滅亡の最大の原因はヤハウエ礼拝の墮落です。両王国共に、その王をはじめ、その国民がヤハウエとの契約に反して他の神々に仕え、偶像を拜してヤハウエの怒りを招いたのです。ヤハウエにささげる犠牲は唯一の聖所、すなわちエルサレムの神殿に於いてささぐべきことを主張する申命記の立場から、エルサレム神殿以外の聖所、すなわち「高き所」において行われた礼拝はバル礼拝の如き異教の礼拝と何ら異なることなく、ヤハウエの嘉みしたもうものではありません。北王国を滅亡に至らしめた最大の原因はヤラベアムがエルサレム以外に(ベテルとダン)聖所を設け、そこに金の子牛をまつり、レビ族出身ならざる祭司をして祭儀をつかさどらした罪にあることを力説しています。

バル礼拝に極力反対したエリヤとエリシャの事績を詳述し、あるいはエヒウの革命を力説し(下9~10章)また宗教改革を断行したヨシア王を極力賞賛したのも、この書の意図・目的を示すもので、宗教的教訓の価値を見逃すことはできません。

列王記は神について、大きく開かれた可能性を記して終わっています。そのことによって列王記は、聖書的信仰の規範となっています。

未来への鍵は神にのみ保たれています。イスラエルと教会の両者の経験は、聖書の神が驚くべき祝福された結末と恵みをもたらす神であることを証言し、イエスを死者の中から甦らせた神なのです。(終)



列王記からのお導き、感謝いたします。  
3月21日の第1回茨城アッシュラムが  
祝されますように。

## あとがき

台湾愛修会の指導者、元台湾基督教長老教会総幹事の高俊明牧師が、2月14日に召天されました。享年91歳。「台湾人格者」として、台湾のキリスト者のみならず、民主化運動の指導者として尊敬されたい高牧師は、私たちアッシュラムメンバーが深く深い友情で繋がってくださいます。昨年12月に後宮俊夫牧師を天に送り、今また台湾愛修会の重鎮高俊明牧師が帰天される。後に残された私たちは途方にくれるばかりである。しかし、主はこの時にこそ、先祖たちを導いたようにお前達とともにいられる、と高らかに宣言されるのだ。終わりは始まる。どうか、これからのアッシュラムの働きが主のご栄光をあらわすものとなっていくますように。

高先生の天への凱旋を喜び見送るとともに、残された皆様方に深く哀悼の辞を捧げます。(恵)